

自然体験活動上級指導者 (インストラクター)

講習会講師ハンドブック

平成28年8月

全国体験活動指導者認定委員会

も く じ

自然体験活動上級指導者 （インストラクター）	2
1. 学校教育における体験活動	3
2. 自然体験活動の特質	5
3. 対象者理解	7
4. 自然体験活動の指導	9
5. 自然体験活動の技術	1 1
6. 自然体験活動の安全管理	1 3
7. 自然体験活動の企画・運営	1 5
ガイダンスと試験	1 8

自然体験活動上級指導者（インストラクター）

「目的」

自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成講習会は、指導者像に掲げる指導者を養成し、青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動を推進するために実施する。

「指導者像」

自然体験活動総括指導者（コーディネーター）のもと、自然体験活動におけるプログラムの企画・実施者になるとともに、自然体験活動指導者（リーダー）を指導する。

- ①自然体験活動におけるプログラムを企画・運営・評価する。
- ②自然体験活動指導者（リーダー）に対して自然体験活動におけるプログラムのねらいを伝え、指導方針の共通理解を図る。
- ③自然体験活動におけるプログラムを直接指導する。
- ④自然体験活動におけるプログラムの安全管理を行う。

「主な目標」

1. 学校教育における体験活動の意義を理解する。
2. 地域の自然、文化、歴史、産業を理解する。
3. 対象者への配慮について理解し、適切な対応ができる。
4. 自然体験活動の指導方法を理解する。
5. 自然体験活動の専門的な技術を理解する。
6. 自然体験活動の安全管理の技術を理解する。
7. 自然体験活動におけるプログラムの企画と運営ができる。
8. 自然体験活動上級指導者（インストラクター）にかかわる仕組みと役割を理解する。

「科目と時間数」

1. 学校教育における体験活動	1. 5時間
2. 自然体験活動の特質	1. 5時間
3. 対象者理解	3. 0時間
4. 自然体験活動の指導	3. 0時間
5. 自然体験活動の技術	3. 0時間
6. 自然体験活動の安全管理	3. 0時間
7. 自然体験活動の企画・運営	6. 0時間
ガイダンスと試験	1. 5時間

計 22. 5時間

学校教育における体験活動

【90分】90分×1コマ

「目標」

学校教育における体験活動の意義を理解する。

- ①学校教育における体験活動の意義について理解する。
- ②学校教育における集団宿泊活動等の現状について理解する。
- ③学習指導要領における体験活動の位置づけを理解する。

「主な講習内容」

学校教育における体験活動の意義を理解する。

- ①学校教育における体験活動の意義について理解する。
 - ・学年や発達段階に応じた体験活動の内容や方法があること。
 - ・体験活動に教育的意義があること。
 - ・中央教育審議会答申（H20.1.17）に示されている「体験活動の充実」に関すること。特に重点的に行う体験活動として、小学校「集団宿泊活動」、中学校「職場体験」、高等学校「奉仕体験・就業体験」など。
- ②学校教育における集団宿泊活動等の現状について理解する。
 - ・自然の中での集団宿泊活動に教育的意義があること。
 - ・集団宿泊活動の教育課程への位置づけに関すること。
 - ・集団宿泊活動実施上の課題があることと、それに対する支援が必要であること。
- ③学習指導要領における体験活動の位置づけを理解する。
 - ・学校教育で教える内容は学習指導要領によって決められていること。
 - ・学習指導要領は、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間で構成されていること。
 - ・学習指導要領及び解説編には、学習内容や授業時間数などのほか、授業展開についての説明が掲載されていること。
 - ・学習指導要領における体験活動の位置づけについては、現行の学習指導要領への位置づけとともに、改定ごとの変遷に関すること。

「留意点」

- (1) 文部科学白書や各都道府県教育委員会等の各種統計資料などを活用する。
- (2) 発達段階に応じた体験活動の内容や方法があることは、「対象者理解」の科目と連動するようにする。

「参考資料」

- 中央教育審議会答申
 - 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」H20. 1. 17
 - 「教育振興基本計画について－「教育立国」の実現に向けて－（答申）」H20. 4. 18
 - 「今後の青少年の体験活動の推進について（答申）」H25. 1. 21
- 文部科学省
 - 小学校学習指導要領、学習指導要領解説特別活動編など
 - 文部科学白書（文部科学省 HP より）
 - 「体験活動事例集」H15. 3
 - 「体験活動事例集～体験のススメ～」（H17・18年度 豊かな体験活動推進事業より）H20. 1
- 独立行政法人国立青少年教育振興機構
 - 「体験を通して学ぶ教科学習のすすめ」H20. 6
 - 「小学校自然体験活動モデルプログラム開発」報告書 H22
 - 「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」H21年度実態調査報告書 H22. 10. 14
 - 「学校で自然体験をすすめるために」（自然体験活動指導者養成講習会テキスト）H23. 3
- 農山漁村での宿泊体験による教育効果評価委員会
 - 「農山漁村での宿泊体験による教育効果の評価について（報告）」H22. 7
- 社団法人全国農業観光協会「小学校とその受入地域の取り組み事例集」H24. 3
- 教育基本法、学校教育法、社会教育法などの関連法規

自然体験活動の特質 【90分】90分×1コマ

「目標」

- (1) 地域の自然環境、文化、歴史、産業を理解する。
- ①自然体験活動の意義を再確認する。
 - ②地域の自然環境を理解する。
 - ③自然体験活動に関わる地域の教育、文化、歴史、産業などを理解する。

「主な講習内容」

- (1) 地域の自然環境、文化、歴史、産業を理解する。
- ①自然体験活動の意義を再確認する。

 - ②地域の自然環境を理解する。
 - ・地域の四季の変化の様子のこと。
 - ・地域の海、河川、湖水、山などの自然環境のこと。
 - ・地域の気象の特徴のこと。
 - ・地域の動物や植物のこと。

 - ③自然体験活動に関わる地域の教育、文化、歴史、産業などを理解する。
 - ・自然体験に関わる地域の教育、子育てに関すること。
 - ・地域の祭事や伝統芸能に関すること。
 - ・地域の伝承や歴史に関すること。
 - ・自然体験に関わる地域の産業に関すること。

「留意点」

- (1) 開催地の地域が持つ魅力や課題にふれ、具体例を挙げながら自然体験活動がどのように関連しているか現状を伝える。
- 机上だけではなく、できるだけ現場に出て、社会学的なフィールドワーク等の手法を用いても良い。
- (2) ここでふれた内容が「自然体験活動の企画・運営」の導入になるように、科目間の連携を意識すること。

「参考資料」

- ・ 野外教育の理論と実践 自然体験活動研究会編（杏林書院）
- ・ キャンプ指導者入門 社団法人日本キャンプ協会
- ・ 日本型環境教育の知恵 日本環境教育フォーラム（小学館）
- ・ 各地域で発行されている自然環境・文化・歴史・産業を紹介する資料、文献、パンフレット等

対象者理解 【180分】 90分×2コマ

「目標」

- (1) 対象者への配慮と対応方法を理解する。
- (2) 特別な配慮を要する対象者の特徴や個性、対応の方法を理解する。

「主な講習内容」

- (1) 対象者への配慮と対応方法を理解する。
 - ・対象者を理解するためには、一般的理解（この障がいにはこのような特徴がある等、一般的な特徴を理解すること）と個別的理解（それぞれの人に個性があるようにひとりひとり違いがあること）があること。
 - ・対象者への個別的理解を深め、配慮すべき事項を確認すること。
 - ・対象者と関わりあいながら情報を得ること。
 - ・相手の立場に立って対象者へ対応すること（カウンセリングマインド）。
 - ・共感的理解（相手の言いたがっていること、わかってほしいがっていること、訴えたがっていることを、言いたがっているまま、わかって欲しいがっているまま、訴えたがっているままに理解すること）、傾聴、受容等の基本的な態度で対象者へ対応すること。
 - ・常に対象者のことを第一に考えて対応すること（メンバーズファースト）。
 - ・対象者を常に観察し、対象者を十分理解し、できるだけ個別に配慮した対応をめざすこと。
 - ・対象者が集団の中で他者とどのような関係性をもっているのかを把握すること。
- (2) 特別な配慮を要する対象者の特徴や個性、対応の方法を理解する。
 - ・自閉症スペクトラム、ADHD（注意欠陥・多動性障害）、LD（学習障害）等の発達障害など、特別な配慮を要する対象者について、一般的理解をすること。
 - ・特別な配慮を要する対象者に対して、個別的理解をすること。
 - ・特別な配慮を要する対象者には、共感的理解、傾聴、受容等の基本的な態度で対応すること。
 - ・状況に応じた安全管理体制が必要なこと。
 - ・対象者の状況や活動場所の状態から活動の内容や展開について検討すること。
 - ・事前に対象者の情報を得ておくことのほか、行動の様子や対象者相互の交流の様子から状況を捉えること。

「留意点」

- (1) 障がいがあるなしにかかわらず配慮が必要な対象者がいること、参加者を観察する手法が必要であることを理解させる。
- (2) 現場でのイメージを高めるため、できるだけ参加型にするよう心がけること。
- (3) 動画などの教材を多く取り入れること。
- (4) 特別な配慮を要する対象者への対処方法については、できるだけ多くの事例を取り上げ、紹介すること。

「参考資料」

- ・障がいのある子どもの野外教育 自然体験活動研究会編（杏林書院）
- ・発達障がいのある青少年を支援する指導者のガイドブック ボーイスカウト日本連盟
- ・障害児スカウティングの手引き ボーイスカウト日本連盟
- ・キャンプディレクター必携 社団法人日本キャンプ協会
- ・LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（東洋館）
- ・ADHD とはどんな障害か—正しい理解から始まる支援 上林靖子共著（少年写真新聞社）
- ・高機能自閉症・アスペルガー症候群入門—正しい理解と対応のために 内山登紀夫著（中央法規出版）

自然体験活動の指導 【180分】 90分×2コマ

「目標」

- (1) 自然体験活動の指導方法を理解する。
- (2) 自然体験活動の指導技術を理解する。

「主な講習内容」

- (1) 自然体験活動の指導方法を理解する。
 - ・自然体験活動は、「ねらい」のもとに複数のプログラムで構成されていること。
 - ・自然体験活動には、それぞれのプログラムに応じた指導の方法があること。
 - ・自然体験活動は、安全確保に留意し、天候やその他の状況によって、指導内容や指導方法の変更ができる柔軟性を持つこと。
 - ・自然体験活動の指導に際しては、指導案を作成し、作成した指導案に沿って指導の体験を行うこと。
 - ・指導の体験終了後、参加者や指導者相互による評価をおこない、指導技術の改善が必要なことを理解すること。
- (2) 自然体験活動の指導技術を理解する。
 - ・効果的に自然体験活動におけるプログラムを実施するために必要な指導技術を理解すること。
 - ・自然体験活動の指導では、次の能力が必要であることを、グループワークやワークショップの体験を通して理解すること。
 - 例) コミュニケーション能力
 - カウンセリング能力
 - インタープリテーション能力
 - プレゼンテーション能力
 - インストラクション能力
 - ファシリテーション能力 等
 - ・継続的な自己研修を通じて改善点を解決できるよう努めること。

「留意点」

- (1) 講義展開だけでなく、実際に指導の体験を行い、ロールプレイやワークショップなどの実技の中で「フィードバック」などの相互評価を行い、経験を積むこと。
- (2) 指導の体験については、時間的な制約から、全員ではなく、モデルパターンとして少人数での実施でも良い。
- (3) 指導技術には、多岐にわたる要素があることや自己研修で取り組むべき項目を認識できること。
例) 企画・計画力、野外技能、プレゼンテーション技法、他
- (4) 他の科目にある関連する講義を抽出し、講師の経験談や実例を交えながら具体的に説明すること。
- (5) 本講義を通じて、参加者自身が自己の特徴に気付き注意点や改善点を自覚できること。

「参考資料」

- ・ 野外教育の理論と実践 自然体験活動研究会編 (杏林書院)
- ・ キャンプ指導の安全と健康管理 野間口英敏著 (お茶の水書房)
- ・ キャンプ指導のQ&A 野間口英敏著 (遊戯社)
- ・ キャンプカウンセリング入門 斉藤仲次著 (明治図書)
- ・ アドベンチャーグループカウンセリングの実践 PAJ監修 (みくに出版)
- ・ 体験活動の指導技術 国立中央青少年交流の家
http://fujinosato.niye.go.jp/pdf/activity/actPlan_02.pdf
- ・ カウンセリングマインド 國分康孝著 (誠信書房)

自然体験活動の技術 【180分】 90分×2コマ

「目標」

- (1) 自然体験活動の専門的な技術を体験する。
- (2) 自然体験活動の専門的な技術を理解する。

「主な講習内容」

- (1) 自然体験活動の専門的な技術を体験する。
 - 例) 登山、ロッククライミング、スキーなどの山岳の活動
 - カヌー、ラフティング、沢登りなどの川の活動
 - ヨット、シーカヤック、スキンドайビングなどの海の活動
 - オリエンテーリング、マウンテンバイクなどの陸上の活動
 - ネイチャークラフト、ネイチャーアートなどの創作活動
 - 植物観察、昆虫観察、天体観察などの自然観察の活動
 - 森林、河川、山岳、海洋などにおける環境教育活動
 - 地域社会の伝統や文化、環境などを保全・継承する活動
- (2) 自然体験活動の専門的な技術を理解する。
 - ・自然体験活動には、習得すべき専門的な技術があること。
 - ・自然体験活動の専門的な技術を習得するためには、日々自己研鑽を積む必要があること。
 - ・自然体験活動の専門的な技術を習得するためには、必要に応じて道具や機械の使用方法を習熟する必要があること。
 - ・自然体験活動の専門的な技術を習得する際に、安全に関する配慮事項があること。

「留意点」

- (1) 各養成団体で実施している自然体験活動のうち専門的な技術を要するプログラムを体験すること。
- (2) ライセンスの必要なプログラムを実施する際には、その資格保持者が行うこと。
- (3) この科目は、「自然体験活動の指導」の科目と合わせて実施することもできる。
- (4) 地域の特色を生かし参加者が技術の習得による喜びを得られるように配慮する。
- (5) 技術の習得には個人差があることを理解し、それぞれに習得する時間差があることを認識して指導する。
- (6) 道具、機材を使うときには、新たなリスクの発生を認識して、常に整備された状態にあることを確認し、正しい使用法を伝える。
- (7) 参加者のレベルにあった技術指導や活動場所の選定が必要であることを留意する。

「参考資料」

- ・ボーイスカウトフィールドブック 財団法人ボーイスカウト日本連盟 (朝日ソノラマ)
- ・キャンプ指導者入門 社団法人日本キャンプ協会
- ・ロープワークの基本 善養寺ススム著 (エイ出版社)
- ・山岳地図の読み方・使い方 村越真・宮内佐季子著 (エイ出版社)
- ・カヌー&カヤック入門 辰野勇著 (山と溪谷社)
- ・ガイドマニュアル「山岳ガイド編」 社団法人日本山岳ガイド協会
- ・自然観察ハンドブック (フィールドガイドシリーズ) 日本自然保護協会
- ・カヌースポーツ基礎 日本レクリエーションカヌー協会
- ・雪山登山 (ヤマケイ・テクニカルブックー登山技術全書) 遠藤晴行著 (山と溪谷社)
- ・沢登り (ヤマケイ・テクニカルブックー登山技術全書) 深瀬信夫著 (山と溪谷社)
- ・フリークライミング (ヤマケイ・テクニカルブックー登山技術全書) 北山真著 (山と溪谷社)
- ・教育本部スキー指導と検定 2014 公益財団法人全日本スキー連盟
- ・環境を守る最新知識 日本生態系協会

自然体験活動の安全管理 【180分】 90分×2コマ

「目標」

- (1) 安全管理の意義と方法について理解する。
 - ①安全管理の意義について
 - ②安全管理の方法について
- (2) 活動場所とプログラムにおける安全管理について理解する。

「主な講習内容」

- (1) 安全管理の意義と方法について理解する
 - ①安全管理の意義について
 - ・安全管理は安全で楽しいプログラムのためにあること。
 - ・安全管理を行うことで危険を軽減、回避できること。
 - ・体験活動を行ううえでは、リスクをゼロにすることはできないと知ること。
 - ・安全管理のプロセス（事前対策、事業中、実施後の取り組み）を理解すること。
 - ・リスクには、人的要因、物的要因、環境的要因があること。
 - ②安全管理の方法について（リスクの管理）
 - ・リスクの発見、把握（リスクの種類）
 - ・リスクの評価、分析（リスクの大きさ、起こりやすさ）
 - ・リスクの処理（軽減、転嫁、保有、回避）
 - ・確認、フォロー
- (2) 活動場所とプログラムにおける安全管理について理解する。
 - ・活動場所で行われるプログラムの危険要因を考えること。
（人的要因、物的要因、環境的要因）
 - ・リスクには、顕在的な危険要因と潜在的な危険要因があること。
 - ・活動場所やプログラムのヒヤリハットに関すること。
 - ・活動場所やプログラムの危険を軽減または回避するなど事故を防止する方法を理解すること。
 - ・初期対応の重要性を知り、対応力をつけること。

「留意点」

- (1) 机上だけでなく、できるだけ参加型でロールプレイなど実演をしながら、場合によっては野外での実技が望ましい。
- (2) 養成団体の活動や活動場所の特性に依拠した安全管理の技術を学ばせる。
- (3) 自然体験活動上級指導者（インストラクター）では、自然体験活動におけるプログラムの安全管理を取り扱う。
- (4) 実際の体験活動を行う中で、リスクを発見するような演習を取り入れる。

「参考資料」

- ・自然体験指導者のための安全対策読本 安全で豊かな自然体験を提供するために 財団法人日本レクリエーション協会
- ・自然体験活動指導者 安全管理ハンドブック NPO 法人自然体験活動推進協議会
- ・子ども農山漁村交流プロジェクト 受入安全管理マニュアル簡易版 関東子ども農山漁村交流プロジェクト推進協議会
- ・自然体験活動安全管理ハンドブック NPO 法人国際自然大学校
- ・自然とのふれあい活動における安全対策マニュアル策定調査報告書 NPO 法人自然体験活動推進協議会
- ・安全管理と安全学習 自然体験活動研究会（杏林書院）
- ・SAFETY OUTDOOR キャンペーン
<http://www.safetyoutdoor.net/>

自然体験活動の企画・運営 【360分】90分×4コマ

「目標」

- (1) 自然体験活動におけるプログラムの企画・運営ができる。(3コマ)
 - ①自然体験活動におけるプログラムの構成と流れ及び企画の基本と留意点について理解する。(講義)
 - ②自然体験活動におけるプログラム企画の方法を理解する。(実習)
 - ③自然体験活動におけるプログラムの運営方法を理解する。
- (2) 自然体験活動におけるプログラムの評価ができる。(1コマ)
 - ①自然体験活動におけるプログラムの評価方法を理解する。

「主な講習内容」

- (1) 自然体験活動におけるプログラムの企画・運営ができる。
 - ①自然体験活動におけるプログラムの企画の基本と留意点について理解する。(講義)
 - ・自然体験活動におけるプログラムの企画の基本は、6W2H1Sが大切であること。
 - ・特に、以下のことについて留意すること。
 - 自然体験活動におけるプログラムの目的をはっきりさせて企画をすること。
 - 子どもや対象者に即した企画をすること。
 - 時間や内容にゆとりある企画をすること。
 - 安全・安心が守られている企画をすること。
 - ・複数のプログラムのつなぎ方と順番が大切であり、「導入・展開・まとめ」や「起承転結」など、流れのある企画をすること。
 - ②自然体験活動におけるプログラム企画の方法を理解する。(実習)
 - ・事業全体の目的・目標に沿って6W2H1Sを明確にした自然体験活動におけるプログラムを企画すること。
 - ・以下の事例を参考に、自然体験活動におけるプログラムを組み立てる際には、条件（主催者、参加者、場所、時期等）を提示する。
 - 例) 青少年教育関係団体が企画する自然体験活動におけるプログラム
 - 学校教育としての自然体験活動におけるプログラム（長期集団宿泊活動等）
 - 民間教育事業者が企画する自然体験活動におけるプログラム 等
 - ・企画した自然体験活動におけるプログラムを発表し、フィードバックによる改善を行うこと。
 - ・自然体験活動におけるプログラムの企画力や計画力を高めること。
 - ③自然体験活動におけるプログラムの運営方法を理解する。
 - ・運営方針等の共通理解を図ると共に、チームワーク（組織）の重要性を理解すること。
 - ・参加者や指導者相互による評価を行い、指導・技術の改善が必要なことを理解すること。
 - ・参加者の行動や変化については「結果」よりも「プロセス」に注目した評価を行うこと。
 - ・自然体験活動におけるプログラムの目的を確認し、柔軟な運営を心がけること。

(2) 自然体験活動におけるプログラムの評価ができる。

①自然体験活動におけるプログラムの評価方法を理解する。

- ・評価の目的は、参加者の変容を明らかにすることともに、自然体験活動におけるプログラムや構成する個々のプログラムの改善を図っていくためであること。
- ・評価するためには、評価の方法、評価する項目、評価規準・基準が必要なこと。
- ・評価手順には、PDCAサイクルなどの方法があること。
- ・評価は、評定ではないこと。
- ・評価の意味と重要性を理解すること。

「留意点」

- (1) 自然体験活動におけるプログラムとそれを構成する個々のプログラムの組み立てや流れの例を提示する。
- (2) 自然体験活動におけるプログラムの目的、企画者の思い、社会的背景、ニーズ・条件等を確認することが重要であることを強調する。

「参考資料」

- ・森林環境教育一事始め編― 森林環境教育をはじめよう 全国森林組合連合会
- ・森林環境教育プログラム事例集 ふれあい まなび つくる 全国森林組合連合会
- ・森林環境教育プランニング事例集 おもい つどい はじめる 全国森林組合連合会
- ・実践講座インタープリテーション 国土交通省総合政策局観光部監修 (財団法人日本交通公社)
- ・インタープリテーション入門―自然解説技術ハンドブック キャサリン・レニエ、ロン・ジーマーマン、マイケル・グロス著 (小学館)
- ・身近な自然から気づくきっかけづくりプログラム集 公益社団法人日本環境教育フォーラム
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>
- ・自然体験アクティビティ集 公益社団法人日本環境教育フォーラム
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>
- ・川や海などの水辺でできる自然体験アクティビティ集 公益社団法人日本環境教育フォーラム
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>
- ・どんな活動ができるか：プログラム作成の手引き 国立諫早青少年自然の家
http://isahaya.niye.go.jp/program/program_index.html
- ・自然体験活動QQ レスキュー隊 日本アウトドアネットワーク <http://www.jon.gr.jp/qq/index.html>
- ・自然体験ライブラリー (自然体験.COM) <http://www.shizen-taiken.com/library.html>
- ・自然体験.COM「自然体験活動の企画運営マニュアル(全2回)」
<http://www.shizen-taiken.com/library.html#planning>
- ・小学校での総合的な学習の時間に役立つ身近な自然から気づくきっかけプログラム集
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>

- 中学校での「総合的な学習の時間」に役立つ自然体験アクティビティ集
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>
- 「総合的な学習の時間」に役立つ川や海などの水辺でできる自然体験アクティビティ集
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>

ガイダンスと試験 【90分】 90分×1コマ

※この項目は主任講師（講習管理者）が行うこと。

「目標」

自然体験活動上級指導者（インストラクター）にかかわる仕組みと役割を理解する。

- ①自然体験活動指導者認定制度の自然体験活動上級指導者（インストラクター）にかかわる仕組みを理解する。
- ②自然体験活動上級指導者（インストラクター）の役割を理解する。

「主な講習内容」

自然体験活動上級指導者（インストラクター）の役割を理解する。

- ①自然体験活動指導者認定制度の自然体験活動上級指導者（インストラクター）にかかわる仕組みを理解する。
 - ・自然体験活動推進協議会の指導者制度、文部科学省委託事業自然体験活動指導者養成事業など、これまでの指導者養成の変遷があること。
 - ・全国体験活動指導者認定委員会、同自然体験活動部会、自然体験活動指導者養成カリキュラムの概要、資格内容などの資格認定制度のこと。
 - ・自然体験活動指導者養成講習会の中で使う用語のこと。
 - ・資格認定に伴う手続きのこと。
 - ・概論Ⅱ履修後の「演習Ⅱ」受講手続きのこと。
 - ・資格認定後の受講認定団体における自然体験活動上級指導者（インストラクター）として活動できる情報に関すること。
- ②自然体験活動上級指導者（インストラクター）の役割を理解する。
 - ・自然体験活動上級指導者（インストラクター）の役割と内容のこと。
 - ・自然体験活動総括指導者（コーディネーター）の主な役割に関すること。
- ③試験を実施する。
 - ・試験の方法・時間・合格点等の説明に関すること。
 - ・試験の実施。

「留意点」

- (1) 自然体験活動指導者認定制度の説明については、統一した説明資料を使って説明する。
- (2) 自然体験活動指導者養成講習会で使用する用語については、統一した説明資料を使って説明し、共通理解を図ってから講習を開始する。
- (3) ガイダンスについては60分とし、講習会の最初と最後に行うこととするが、講習会の組み方によっては、複数回に分けてガイダンスすることも可能とする。
- (4) 試験については、原則として、講習内容に基づいて、知識的な事項については選択式穴埋め問題などの択一式問題として、上級指導者としての理念的な重要事項は自由記述の論述問題として、バランスよく主任講師（講習管理者）が作成する。また、試験の時間は30分とし、合格は100点満点中60点に設定する。論述問題の採点基準については、あらかじめ設定しておく。配点は受講者に説明する。
- (5) 試験結果の告知方法及び合格・不合格の場合の手続き方法について説明する。
- (6) 「演習Ⅱ」については、全国体験活動指導者認定委員会が認定する養成団体で受講できること及びその養成団体における担当者は、それぞれの養成団体に所属する主任講師があたることを説明する。

「参考資料」

- ・ 自然体験活動指導者認定制度の統一した説明資料
- ・ 自然体験活動指導者養成講習会で使用する用語の統一した説明資料
- ・ 認定手続き等に必要の様式集